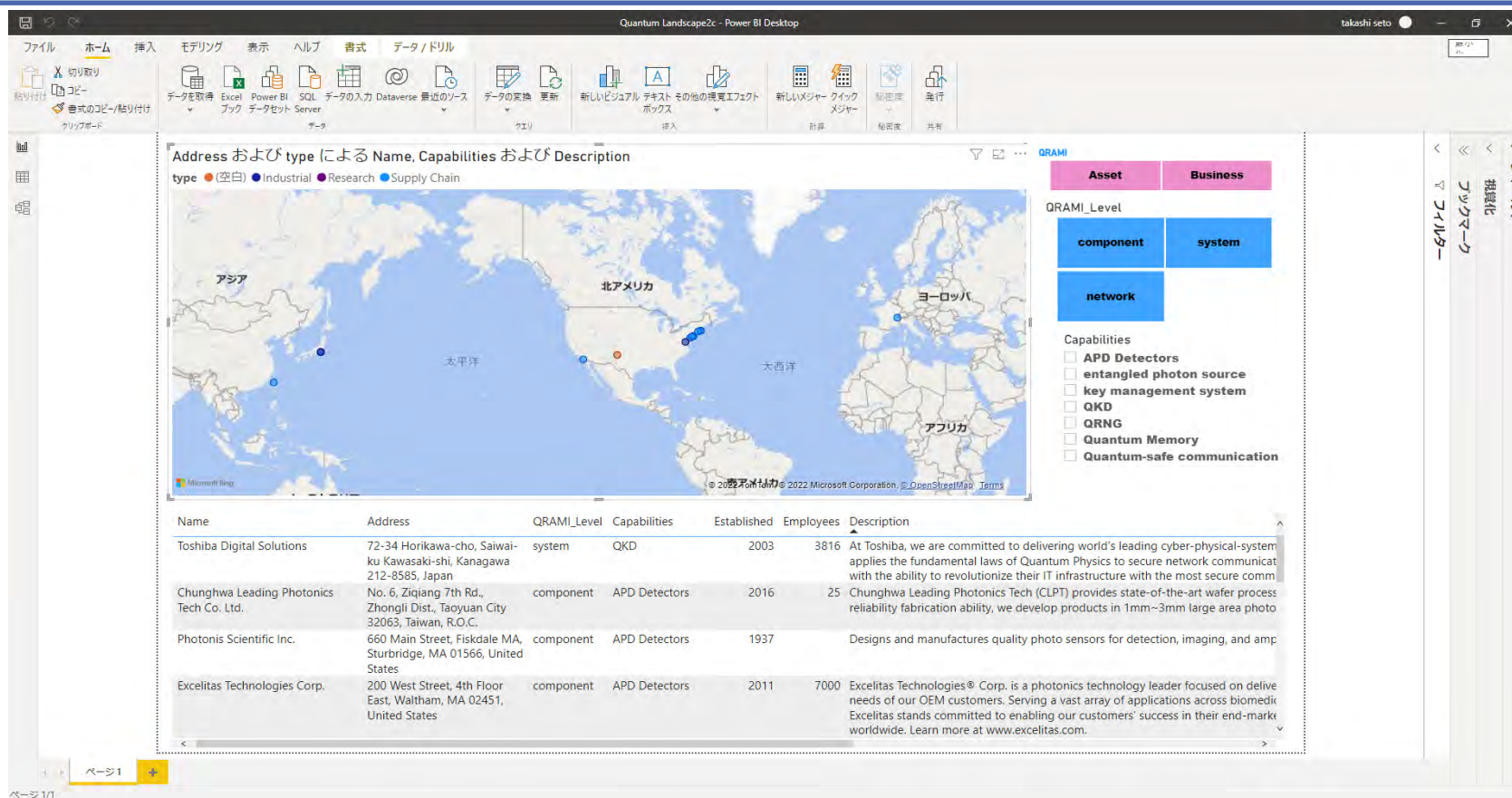
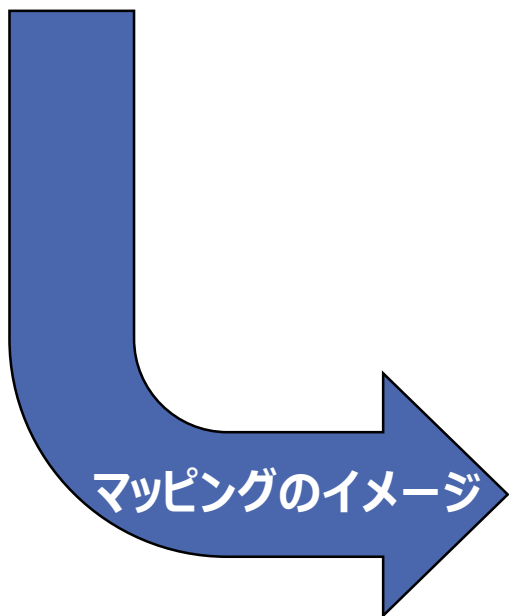


(参考) 量子サプライヤーマップ

量子サプライヤーマッピング (量子関連のサプライヤー見える化)

- アイテム： 日本をはじめ、欧米亜を含むグローバルな量子関連サプライヤーのマッピングを、Q-STARにて作成
- 手段： 米QED-Cや欧QuICなど海外量子団体とも協力し、グローバルで統一した情報を網羅したサプライヤーマッピング構築
- 期待効果： ①日本の量子技術を持つ企業の海外へのアピールや、海外サプライヤーの技術取り込み等、国際交流機会拡大
： ②サプライヤーマッピングをQ-STARの勧誘ツールとした、Q-STARの会員数拡大

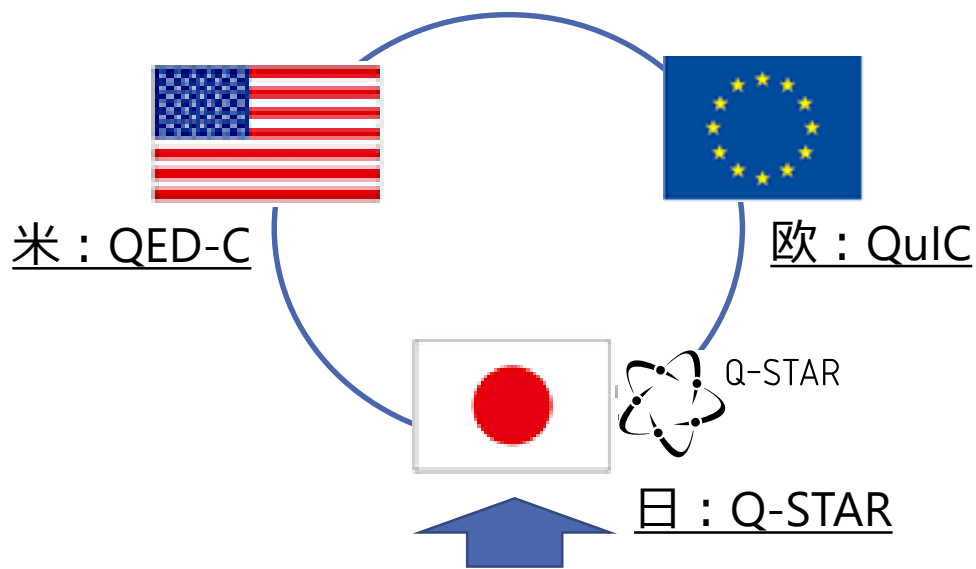


(参考) 統合量子シンポジウム

海外主要団体と連携したシンポジウム実施

- 日・米・欧の量子3団体持ち回りでの、シンポジウム
- 世界の量子産業を日米欧3極で主導すべく、量子団体の交流活発化。

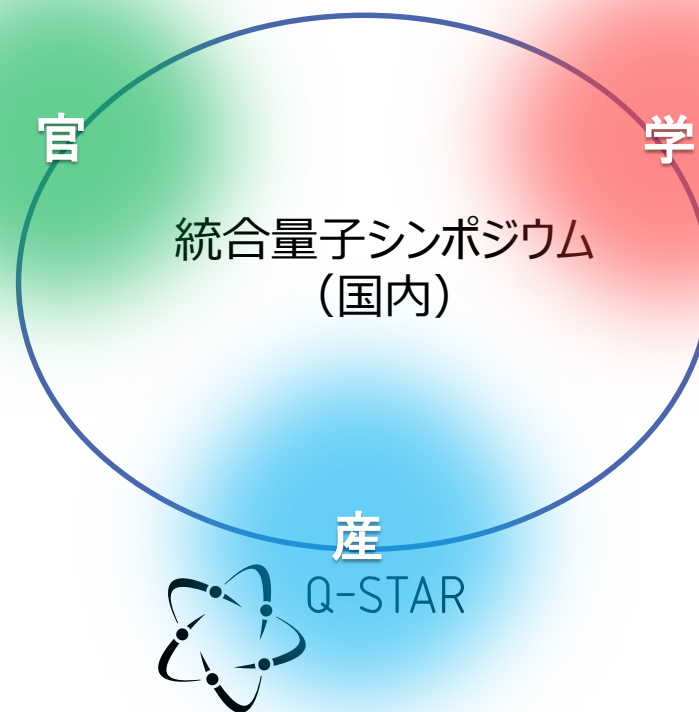
仮称 : Quantum United.



海外主要団体とのシンポジウムにオールジャパンで参画していく
(Q-STAR主導)

国内量子団体のシンポジウム統合 (案)

- 産官学が個々で開催しているシンポジウムの集約・効率化
 - 狙い
- ① 最大限の統合を通じた、発表内容のインパクト最大化
 - ② 主な発表者と想定される研究者の方々の負荷低減



END



APPENDIX

政府への期待・要望（テーマ別／時間軸別①）

分類	テーマ	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年~	部会/WG
産業化 ・ ユース ケース 実現	量子コンピュータ テストベッド構築 支援及び使用予 算の確保	多くの企業が早期使用可能なテストベッド整備し、ユースケース創出、共通モデルを開発目指す						テストベ ッド連携 WG、 量子重 ね合わせ 応用、 最適化・ 組合せ応 用部会
		22年~25年はアニーリングモデル用テストベッド						
		22年~27年：総額44億						
		23年以降はゲート型(NISQ)テストベッド活用 による実用化推進 (2027年以降も必要)						
	量子暗号 ・量子通信 インフラ整備	衛星量子暗号・量子通信の研究開発、インフラ整備 (2022年~2030年)						
		公共サービスを量子セキュア通信上に実装する 「デジタル政府基盤」などの実現 (2022年~2030年)						
		テストベッド利用個社の設備投資を軽減 (サービス利用料として各社に請求) (2023年~ 2024年)						量子暗 号・量子 通信部 会
	量子暗号 ・量子通信 産業育成	政府がアーリーアダプタになり需要喚起 (防衛/公安等) (2022年~2030年)						
		量子開発ベンチャ支援 イノベーション製品・サービス導入企業に対する優遇税制 (2023年~ 2025年)						(2025年~ 2027年)
		インフラ整備後、共同事業体によりテストベッドを運用し 量子産業を育成。共同体への補助金・融資等の財政支援						
	ベンチャー支援/ 量子 ユニコーン企業 立上げ支援	ユニコーン企業 (目標 3 社) 創出の為の政府のアーリーアダプター化						事務局

政府への期待・要望（テーマ別／時間軸別②）

分類	テーマ	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年~	部会 /WG
共通重要施策	ハイリスク開発テーマに参画する企業の負担軽減化	税制		量子技術のHW開発やサービス創出企業への税制優遇			(2027年以降も必要)	量子重ね合わせ応用部会
		制度		マッチングファンド型PJ等での参画企業の費用負担の削減			(2027年以降も必要)	
	日本主導をめざした国際標準化活動		予算		標準化活動に参加する専門人財の拠出、国際会議出席への資金的援助（1M円程度/年）			(2023年~2027年)
	輸出管理・知財管理体制化	制度		あるべき輸出・知財管理の制度設計		(2022年~2024年)		海外産業連携WG